

# ライフスキル研究所だより VOL.35

2009年9月28日発行 発行者:特定非営利活動法人ライフスキル研究所  
〒563-0017 大阪府池田市伏尾台1-32-17 / 正会員32名・賛助会員2名  
Tel 072-750-2797 / Fax 072-750-2805  
E-mail [info@lifskill-npo.org](mailto:info@lifskill-npo.org) / URL <http://lifskill-npo.org/>



## 子どもの絵を意味あるものとして見ること

絵画であれ、彫刻であれ、人によって創られたものは、作り手の内面や体験を表す非言語のメッセージです。ゴッホやピカソの作品を見ると、私たちはこうした明白な事実を難なく受け入れています。しかし、子どもたちの作品を見るときには、それらを注意深く見るという作業をないがしろにしがちです。私たちは、子どもの絵は「無垢」だと思込んでいます。その表現は自由で、「隠れた意味」などまったくないのだと。しかし、あらゆるアートと同じく、子どもの絵はそれをつくった子について何らかのことを、その子にとって何か意味のあることを表現しているものです。

マザッチョのフレスコ画(フランカッチ礼拝堂/ワイルツェ)

Myra Levick, *See What I m Saying: What Children Tell Us Through Their Art* より(拙訳)

当研究所が子どもに関する諸活動をとおして一貫して訴えていること、それは、「子どもの絵には意味がある」ということです。こうした認識のもと、アートスペース「子どもべや」において子どもたちに創造の場と機会を提供し、大人としてその表現から彼らの心のメッセージを読みとるよう努め、それをふまえて子どもたちと、あるいは保護者の方々とのコミュニケーションをはかっています。

子どもの絵を意味をもったものとして見る この基本姿勢を第1のフェーズとすれば、いかに子どもたちから自由闊達な表現を引き出すか、それが第2のフェーズです。たいていの場合、10歳ごろまでの子どもは、技術の巧拙に関わらずよく絵を描きます。画用紙だけでなく、ノートや教科書の隅っこ、チラシの裏紙、はたまた机の上(!)など、あちこちにその痕跡を残すものです。当研究所のアートスペース「子どもべや」は、技術的な向上を第一の目的にしておらず、その子自身の深いところからの表現を引き出すことを最重要視しているため、本人が特にストレスなく絵を描いている場合、指導者はあえて絵を修正したりすることはしません(もちろん子ども自身からの質問や求めに応じて手助けすることはあります)。しかし、中には極端に絵を描きたがらない子、苦手意識の強い子もいます。そうした子どもに対して、強制的でない形で、自己や世界の表現の一形態としての造形スキルを身につけてもらうことも重要だと考えています。心の中のさまざまな欲求や感情 特に言葉では言いにくいことや本人もまだ自覚していないことが、描画という形で表されることで、情緒の安定を助けることが多いからです。

そして、第3のフェーズは、子どもたちの表現から読み取ったメッセージを糸口に、いかに効果的なコミュニケーションにつなげるかということです。特にネガティブなサインをキャッチしたとき、動揺するのではなく、それを受けとめた上で会話をしたりスキンシップをすることで、潜在している問題を早期に発見できたり、将来大事になるのを回避することが可能になります。何より、一見ひるんでしまうようなネガティブな表現でも、それを描いたこと自体が本人にとっては救いとなっていることが多いものです。

震災などの大規模な災害に見舞われたとき、傷ついた子どもの心を癒す方法として、アートが注目されることはかなり一般的になってきました。しかし、平時に何気なく描いている絵に対しては、まだそれほどの注意が払われていません。子どもの絵について、生半可な知識だけで勝手な決めつけをすることはご法度です。しかし、巨匠の作品を前にしたときと同じように、謙虚な気持ちで「この絵は何を表現しているのだろうか?」と問うてみることは、子どもとの関係に新しい扉を開いてくれることでしょう。子どもの絵が語るのは、聖人や英雄の物語、先鋭な芸術家の苦悩ではありません。しかし、そこには固有の物語があり、成長へのカギが隠されています。大人たちには、文字の読み方を習得したと同じように、ぜひ「子どもの絵の読み方」を学んでほしいと思います。(副理事長/小村みち)

## ワークショップ いろいろ 彩々 活動報告

### にほんごサポートひまわり会でのアート・ワークショップ

外国から来た子どもたちの日本語習得をサポートしている「にほんごサポートひまわり会」(大阪市平野区)で、外国出身の子どもたち対象のワークショップを行いました。日本に来たばかりでまだ日本語での意思疎通が難しかったり、日常会話には困らなくても勉強で苦労していたり、そんな子どもたちが楽しめるアートを!というご要望でした。とにかく、大きな紙に色をぬって、ぬって、混ぜて楽しみ、最後は自分の好きなものをいっぱい描いてくれました。(2009.8.1 平野人権センター)



## 大盛況！「水の都大阪から世界に羽ばたく1・2・3！」を終えて

さる8月29日(土)・30日(日)、中之島公園(大阪市北区)において、水都大阪2009参加ワークショップ「水の都大阪から世界に羽ばたく1・2・3！」を実施しました。1日目の昼ごろは驟雨に見舞われるというハプニングもありましたが、暑いさなかにもかかわらず、大人・子どもあわせて約250名のご来場をいただき、子どもたちの歓声あふれる、活気に満ちた2日間となりました。私たちにとっては、大阪の中心部で、大勢のお客様に活動をアピールする機会にもなりました。

スタッフからは、「来年はないのですか」との声も聞かれました。残念ながら、「水都大阪2009」自体は今年だけのイベントです。けれども、このような大規模なものは無理としても、例えば、週末には公園の一角でアーティストやNPOがワークショップやデモンストレーションを行っていたり、そうしたクリエイティブな活動がしやすいオープンスペースの整備など、このイベントでの様々な試みが都市インフラへと発展していけば、と強く思います。

ただし、その場合、とりまとめや調整の機能を継続的に担う仕組みが必要になります。一般の目には触れない間接的な仕事にも労力やコストはかかり、時間的なものならともかく、継続的になるとボランティアだけでは限界もある。それをどう負担するか。そうした問題も含めて活動展開を考え、実践していくことも、NPOには必要だと思います。NPO活動に携わることで、一人ひとりの市民がそうした視点をもつようになれば、他人任せでない、自立的な都市運営へとつながっていくのではないのでしょうか。協働型事業に参画する意義は、精神的な充足とともに、こうした活動を継続・発展させるためのフレームづくりへと視点が広がり、深められることにあると思います。



### アートでスカット！2009 活動報告

地域にアート活動を広めるアートでスカット！

7/19 池田市・「9つの国を旅してみよう」(担当:中嶋)

参加者一人ひとりが夢の国の王様です。どんな国?宝物はなに?みんな友だちの作った想像の国を楽しみました。

8/5 大和郡山市・「じわっと楽しむ水・墨・色」(担当:実吉)

8/20 生駒市・「じわっと楽しむ水・墨・色」(担当:実吉)

墨の魅力を味わい彩色を楽しむ。素敵な団扇ができました。



### 子どもべやらばーと甲子園教室

8/9 夏休み工作「世界一住みたい夢のお部屋を作ろう！」

素敵な部屋がたくさんできました!ご参加ありがとう!

### 講座・ワークショップ案内 参加者募集中!

#### アートセラピー講座

子どもの絵の見方・カラー・ジュ・箱庭を中心に、教員や援助職の方が現場で使えるアートセラピーの知識とスキルのエッセンスを学びます。

日 時:2009/11/29、12/6、13(日) 13:00~16:00

場 所:大阪 NPO プラザ(大阪市福島区吉野4-29-20)

阪神・JR環状線「野田」駅他から徒歩約10分

受講料:35,000円(会員31,000円)

対 象:教員、カウンセラー、福祉職の方など

#### アートセラピー スキルアップ講座

日 時:2009/10/24(土)午後10/25(日)9:30~15:30

場 所:池田市立コミュニティセンター

受講料:30,000円(会員27,000円)

対 象:当研究所認定ファシリテーター/講座既習者、およびそれに準ずる方

申込み・詳細はHPにて <http://lifskill-npo.org/>

### 編集後記

9月の始め、9年ぶりにイタリアへ行きました。ご存知のとおり世界遺産にあふれ、アートにはこと欠かない国。ルネサンスのみならず古代、中世、そして現代まで、ほとんどあらゆる時代のアートに触れることができます。それらは美術館や博物館だけにあるのではなく、街中の教会や遺跡にあふれています。特に教会は芸術の宝庫といえましょう。多くの人が文字を読めなかった時代、教会を飾る壁画や彫刻は、聖書の教えを物語る雄弁なメディアでした。彼らは文字どおり、読むようにそれらのイメージを見たのです。時代がくだるにつれ、絵画表現は、個人の内的表現や純粋な視覚美の追求へと向かいますが、人は芸術作品について無意識のうちに何かを読み取ろうとするものです。子どもの絵に接するとき、この「読む」というアプローチが役立つのではないかと思います。子どもの絵が語るストーリーはパーソナルなもので、定められた規則があるわけではありませんが、それでも一定の共通点はあるものです。それらを知れば、子どもの絵に対する眼はぐっと開かれると思います。同時に、子どもの心への眼も開かれるのではないのでしょうか。(M)